



第74回国民体育大会

平成31年 9月28日(土) ▶ 10月8日(火)

いぎいき茨城ゆめ国体2019

第19回全国障害者スポーツ大会

平成31年 10月12日(土) ▶ 10月14日(月)

いぎいき茨城ゆめ大会2019

翔べ 羽ばたけ そして未来へ



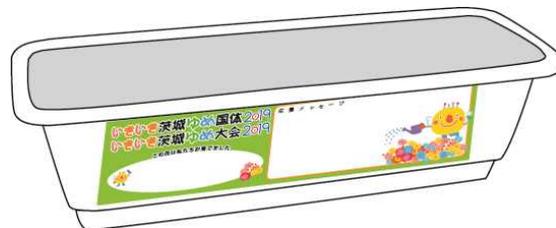
花育てガイド 栽培マニュアル

セルトレイ（72穴及び200穴）が市町村に配付されるまでに、準備しておくもの。

1 準備物

(1) 用意するもの

- ピンセットや小さめのフォーク（フルーツ用のフォーク）または箸
- ポリポット9cm（軽くてやわらかいため、花苗作りに最適です。）
- 育苗用培土
- 花苗
- プランター
- プランター用シール（応援メッセージ）



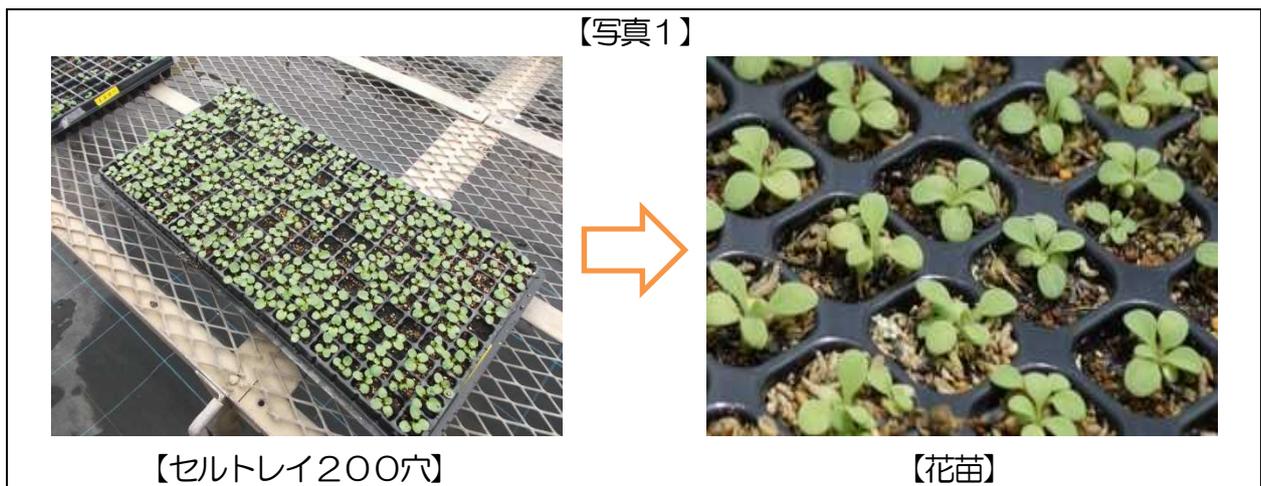
※ シールには、応援メッセージを記入します。

※ 培養土を入れてからではシールが貼りにくいため、プランターには事前にシールを貼りましょう。

2 移植の手順



- (1) 本葉が3~4枚になって、根が十分に出たら移植の時期です。【写真1】
セルトレイ（72穴及び200穴）が、それぞれ配付されたら、ポリポット9cm及びプランターに植え替えをします。



※ 数日間セルトレイで花苗を保管する場合は、水やりをこまめに行い、直射日光は避けてください。

- ①ポリポット9分目くらいまで培土を軽く詰め、土が乾いていたら、水をやり湿らせます。

【写真2】

- ②ピンセット等で土と一緒に苗を抜き取ります。花苗を直接持たないように気をつけます。

【写真3】



2 移植の手順



③ポリポットの土に穴をあけ、差し込むように苗を植え込みます。【写真4】

④たっぷりと水を与えておきます。

⑤移植後の管理

- 日当たり・風通しが良い場所で管理します。
※隣の葉と触れ合うようになってきたら、ポットの間隔を広げます。【写真5】
- 土の表面が乾いたら、たっぷりと水を与えます。
※常に土が濡れている状態では、根の生長が悪くなります。
- 苗が根づいたら、粒状の緩効性肥料を1ポットあたり0.5g（1～3粒）、ポリポットの縁に沿って与えます。【写真6】
- ナメクジやアブラムシ等が発生するので、見つけ次第駆除するか、農薬で防除します。

【写真4】



【写真5】



【写真6】



植物から離して置きます。

3 定植の手順

苗が大きくなって、根がポリポット全体にまわったら定植時期です。



①プランターの4割程度の高さまで土を入れます。【写真7】

②苗をポリポットから抜き取り、プランターにバランスよく配置します。【写真8】

※1プランター3～5本ずつ植えます。

※少し深めに植えることで、生長した時に安定し、雨風にも強くなります。

③苗の土と同じ高さまでプランターに土を入れて、苗がふらつかないように軽く押さえて固定します。【写真9】

④植えた後は、プランターの底から水がしみ出すまでたっぷりと与えます。

【写真7】



プランターの4割程度の高さまで土を入れます。

【写真8】



【写真9】



●花壇に定植する場合は、定植の1～2週間程前に、土に腐葉土、堆肥などを適量加えて混ぜておきます。

4 定植後の管理



◆ プランターの置き場所【写真10】

- 日当たりと風通しがよい場所で管理します。
- 真夏の暑さで花が弱ってしまう場合は、午前中に日が当たり、午後に日陰になるような半日陰に移します。

◆ 水やり

- 土の表面が乾いたら、プランターの底から水がしみ出すまでたっぷりと与えます。
- 夏の暑い時期は、朝と夕方の2回水やりをします。日中の水やりは、水温が高く植物が蒸れるので避けます。
※プランターや鉢植えの場合は、水切れしやすいので、土の乾き具合を見ながら、水やりを行います。

◆ 肥料

- 定期的に肥料を与えます。頻度や量は、花育てガイドブック（P7～P18）にそれぞれ花の育て方の管理に記載しています。
- 花が次々と咲く時期は定期的に肥料を与えますが、真夏の暑さで株が弱る時期は控えます。

【写真10】



5 主な用語【詳細な用語等については、花育てガイドブックP2を参照】

◆摘心【写真11】

- 先端の新芽の部分を摘み取り、脇芽の発育を促すこと。花の数を増やすことができ、ボリュームある姿にするために行います。
- 本葉が7～8枚出始めた頃に、先端の芽を摘み取ります。脇芽が出たら、同じように理想の形になるよう何度か行います。

◆切り戻し

- 草丈が伸びすぎたり、株の内部の日当たり・風通しが悪くて枯れ落ちてしまったとき、また、開花させたい時期に花が過ぎてしまいそうな時に行います。
- 半分くらいの高さまで、葉や芽が残るようにハサミで切り揃えます。しばらくすると、新芽が伸びだして、再び開花します。

◆花から摘み

- 病気の発生を減らしたり、新しいつぼみの発生を促すために、咲き終わった花は、花茎の付け根で摘みとります。手で摘みにくい場合は、ハサミで切ります。また、このとき、痛んだ葉や枯葉も一緒に取り除きましょう。

【写真11】



【開花】



茨城にきれいな花を咲かせよう

